

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和 6年 2月 26日

事業所名: ひだまりクラブ

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。

評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。 配布数:5 回収数:5 回収率:100%

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	○			・昨年度の改修工事後、広い部屋に移動したことで、感染対策としての空間も提供できている。	5				・利用人数に対し、十分なスペースだと思う。	
	2 職員の適切な配置	○			・その日の利用児の人数やニーズに合わせて、職員数を適切に調整している。	4	1				
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がい者の特性に応じた設備整備	○			・利用児に視覚的な情報を提供したり、バギーや座位保持装置のまま移動できるようにしたりしている。	5					・今後も引き続き、それぞれの利用児に合った環境作りを検討し、対応します。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	○			・降園後に毎日清掃を行い、利用児が安全に療育活動を行えるように空間づくりをしている。	5					・部屋内の配置等を工夫し、活動の幅が広がるような生活空間を確保するように努めます。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	○			・朝、当日の利用児に対し、活動のやり方や準備物、職員の動き等の確認をしたり、療育終了後には活動内容の介助等の振り返りを行ったりして、職員間で情報を共有できている。						
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施			○	・実施できていない。						・松山市の事業モニタリングや外部監査を受けており、その結果をもとに事業改善を行います。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	○			・新任研修や外部研修、保育療法部の勉強会等、定期的に研修の機会を持つようになっている。						
適	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	○			・アセスメントを適切に行い、保護者のニーズを取り入れて、計画を作成している。	5				・子ども一人ひとりに沿って作成してもらっている。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
関係機関との連携	1	○			・保護者や相談員からの要請に応じて参加している。						
	2	○			・担当の相談員と情報交換を行い、必要に応じて関連機関とケース会等の話し合いの場を持っている。						
関係機関との連携（続き）	3	○			・利用児が通っている医療機関等、保護者を通して、状況把握や確認を行っている。						
	4	○			・就学児は、教育相談に同席し、就学先との引継ぎを実施している。 ・児童発達支援センターへ移行する児童についても引継ぎを実施している。						
	5	○									
	6	○									
	7	○			・重心児の児童発達支援事業所のため、感染症等への配慮が必要であり、交流保育が再開できていない状況である。	1	1	2	1	・利用回数が少ないため分からない。	・併設の児童発達支援センターの感染状況等を把握しながら、まずはセンターとの交流ができるように努めます。
	8			○							・コロナ禍前のように、卒園式等に地域の方を招待する予定にしているところです。
保護者への説明責任	1	○				5					
	2	○				5					

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
・ 連携支	3	○			・ペアレント・トレーニングの保護者勉強会の参加を文書で呼びかけた。	4			1	・利用回数が少なく、子どもへの支援がメインになっている。	
保護者への説明責任・ 連携支援 (続き)	4	○				4	1				
	5	○				3	1		1	・利用回数が少なく、参加できていない。	
	6		○		・「父母の会」等の活動はしていないが、親子通園事業のため日頃から保護者に交流の場を提供できている。 ・運動会や遠足では、父親の参加も多く、父母間での交流の機会となっている。	3		1	1		・保護者同士の交流ができる場所と時間の提供を継続していきます。
	7	○				4	1				・相談や要望に関しては、相談時間を設ける等、その都度対応します。また、責任者等の他の職員でも面談できることを利用開始時に説明します。
	8	○				5					
	9	○				4		1			
	10	○				・個人情報記載の書類やデータを園外に持ち出したり、部外者に口外したりしないようにしている。	4			1	
非常時等の 対応	1	○			・保護者が通る玄関や廊下の壁に掲示している。	4			1		
	2	○			・定期的に天災や地震を想定した避難訓練が行われ、いざという時にスムーズに避難できるようにしている。	4			1	・利用回数が少なく、参加できていない。	

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標	
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
非常時等の対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	○			・外部の講師による虐待防止の職員研修を毎年開催している。					
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	○			・座位保持装置の使用について（使用理由、使用時間等について）書面上で保護者に説明を行った上で職員間で周知し、個別の支援計画に記載して、やむを得ずの身体拘束を行っている。					・子どもの発達状況に合わせて、使用内容を見直し、その都度保護者に説明し、承認を得るようにしていきます。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	○								
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	○			・終礼時に日々のヒヤリハットの事例を伝え合ったり、月ごとの傾向を分析したりして、職員間で共有している。					

m